

整理番号	5-4	事務事業名	道路交通量調査事業		作成部署	企画財政部 都市計画課		電話	内線761
事務区分	自治事務	法定受託事務	部長職名	市川洋一	課長職名	児玉正輝	作成日	平成17年6月	
事務事業開始年度	S42		根拠法令等						
〃 終了予定年度									
事務事業開始のきっかけ(導入当初の目的等)	市内幹線道路の各地点における道路交通量を把握し、道路網計画の検討や事業計画の策定、交通安全対策のための基礎資料とすること。								

1 計画(プラン)

上位施策との関連(総合計画での位置付け)	章	高い都市機能を持ち、活力にあふれるまち		(第5章)
	節	道路と交通		(第3節)
	施策	市内幹線道路・生活道路等の整備		(第1施策)
目的 (ここから成果指標を導きます)	対象 (誰、又は何を)	市内主要道路の通過交通量		
	意図 (何をねらっているのか、対象をどのような状態にしたいのか)	市内主要道路の各地点における道路交通量の経年変化を把握し、道路網計画の検討や整備効果の把握・評価等の検討資料とするほか、市道の事業化計画の策定、交通安全対策、国や道に対する道路整備事業要望の基礎資料として活用する。		
手段 (ここから活動指標を導きます)	市が行った(行う)事務事業の具体的な実施内容(団体補助等の場合はその補助金による団体の活動内容を記載)	16年度まで	平成15年度までは市内を東西に2分割し、毎年交互にそれぞれ主要交差点等の交通量調査を委託し、報告書を関係部局に配布していたが、平成16年度からは市内を3分割し3年で一度全市を網羅するように調査頻度を変更した。	
		17年度	交通量調査委託 調査地点数:11地点33点	

2 実施(ドウ)

【事業費の推移】

(単位:千円)

区 分		15年度(決算)	16年度(決算)	17年度(予算)	18年度(予定)
直接事業費	国支出金				
	道支出金				
	地方債				
	その他特財				
	一般財源	2,468	2,468	2,415	2,415
合計	2,468	2,468	2,415	2,415	
人件費 (概算)	人数(年間)	0.40	0.40	0.40	0.40
	1人当り年間平均人件費	9,000	9,000	9,000	9,000
	= ×	3,600	3,600	3,600	3,600
総事業費 +	6,068	6,068	6,015	6,015	

【事務事業を評価する指標(ものさし)】

指 標	指 標(算式)	指 標 値			
		15年度	16年度	17年度(目標)	18年度(目標)
活動指標 (事務事業の活動量や実績)	調査地点数	35点	35点	33点	33点
成果指標 (目的の達成度を測るものさし)	データ提供件数	21件	21件	21件	21件
効率指標 (主要活動単位当たりコスト)	1地点あたり調査コスト (総事業費 ÷ 調査地点数)	173千円	173千円	182千円	182千円

3 評価(チェック)と改善(アクション)

事務事業を取り巻く社会環境の変化や今後の予測・他市町村の動向等	道路は交通渋滞の解消などによる利便性の向上や地域活性化のための課題ばかりではなく、周囲の環境に与える影響も大きいことから環境問題や交通安全などの課題も一方では生じている。他市においても同様の交通量調査を実施している。
---------------------------------	--

【妥当性の評価と改善の方法等】

項目	判定	判定の説明や課題	改善の方法
行政関与の妥当性 【市が実施すべき事務事業ですか。市民・企業等での実施可能性はありませんか】	適切 改善の余地あり(改善の方法記入)	道路は公共施設であることから行政が実施することは適切である。	
目的の妥当性 【社会経済情勢や市民ニーズの変化などから、設定した対象や意図は妥当ですか】	適切 改善の余地あり(改善の方法記入)	交通渋滞や交通事故、交通騒音など自動車交通がもたらす課題に対してどのように対応していくかの基礎資料として重要であり、目的は適切である。	
手段の妥当性 【現在の手段は適切ですか。もっと効率的で有効な手法はありませんか】	適切 改善の余地あり(改善の方法記入)	路線ごとの調査ではなく、都市内における全般的な道路交通の流れや変化の状況を把握することが必要であり、民間に委託していることもあり手段としては適切である。	
受益者負担の妥当性 【受益者負担の適正化の余地はありませんか】	適切 改善の余地あり(改善の方法記入) 該当しない	受益者負担の余地はない。	

【有効性と効率性の評価と改善の方法】

項目	判定	判定の説明や課題	改善の方法
有効性の評価 【意図した成果は上がっていますか】	十分成果が上がっている 概ね成果が上がっている あまり成果が上がっていない 成果が上がっていない	交通量調査の結果については関係機関や関係各課において利用されている。	
効率性の評価 【手法は効率的ですか。コスト節減の方法はありませんか】	十分効率的 概ね効率的 やや非効率 かなり非効率	コストのほとんどが委託費であり、3か年で市内全域を網羅することとしており、十分効果的である。	

【事務事業担当部局内優先度】

部局で所管するすべての事務事業の中で、この事務事業の位置づけはどの程度ですか

A B C

4 総合判定と今後の方向性

【1次評価】	判定	今後の方向性や改善方法など
事務事業担当部局の総合判定 【上記3の評価と改善を踏まえ、今後の方向性についての総合判定と改善方法を記入】	拡大・重点化する 現状のまま継続する 見直しの上で継続する 統合する(検討含む) 縮小する(検討含む) 廃止・休止する(検討含む) 終了	交通量調査事業については平成15年度の事業評価に基づいて平成16年度から調査頻度を見直して実施している。他事業(幹線道路網整備計画策定事業)との統合に関しては、今後も検討をしていく。
【2次評価】	判定	今後の方向性等
行財政構造改革推進本部の総合判定	拡大・重点化する 現状のまま継続する 見直しの上で継続する 統合する(検討含む) 縮小する(検討含む) 廃止・休止する(検討含む) 終了	1次評価のとおり